

# 創造的自己改革へ一丸

## JA山形県大会

# 水田農業、担い手に力

【山形】JAグループ山形は17日、山形市で第27回JA山形県大会を開いた。「創造的自己改革への挑戦」をスローガンに、農業者の所得増大と地域活性化に向け、水田農業や担い手対策に特に力を入れて取り組む方針を確認した。大筋合意した環太平洋連携協定(TPP)交渉では、国会決議との整合性徹底検証などを引き続き求めていくとの特別決議を採択した。



創造的自己改革への決意を新たにしたJA山形県大会(17日、山形市で)

約750人が出席した。JA山形中央会の長澤豊会長は「安全・安心な暮らしや、農業の多面的な価値を顧みないTPPの大筋合意には怒りを覚える。政府には、国会決議との整合性徹底検証や影響試算の明示、再生産の確保を迫っていく」と強調。その上で「厳しい環境にある今こそ協同組合の原点に立ち返り、創造的自己改革の旗の下に一致団結してまい進していこう」と呼び掛けた。

県独自に取り組む重点事項として、農業者の所得増大と農業生産拡大に



向け、水田フル活用による最低水稲生産力40万トンの維持、6次産業化推進などに努める。担い手対策では、地域・担い手サポートセンターを中心に担い手を地域で育てる就業・定着を支援する。地域活性化に向け、信

用、共済や高齢者福祉、相続・事業承継相談などの生活支援機能や支所・支店活動を充実させ、准組合員を重要なパートナーとしてメンバーシップを強化する。JA山形中央会は農協法改正を踏まえ、「農協運動の新たな結集軸」を目指し、今後3年間の中央会機能や体制、財政の在り方について、今年度中に会員との協議を踏まえ方向付けるとした。TPP交渉をめぐる特別決議では、より広範な国民・県民各層と連携し、引き続き強力な運動を展開していくとした。